

4 調査結果を踏まえた現状について（中学校国語）

【成果が見られるところ】

- 書いた文章を読み返し、語句の使い方を工夫して書くことについて、正答率は89.4%（全国：86.0%）でした。（A問題3一）

3
次は、高島さんが自分の体験をもとにして書いた【物語の下書き】と、それを読んだ友達からの【助言】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【物語の下書き】

明日に迫った合唱コンクールに向けて、健一たちは練習をがんばってきた。

そしていよいよ本番に向けての最後の練習。張りつめた空気の中、指揮者の動きとともに歌声とピアノの音が静かに止まる。

一瞬の静寂のあと、指揮をしていたカオルが満面の笑みで言った。

「今までで一番よかったよ。」

皆の顔にも笑みが浮かんだ。

「この調子なら明日もよい歌が歌えそうだ。」

と、健一は思わずつぶやいた。

① 皆ががんばって練習している様子が伝わるように、会話を増やすとよい。

② この出来事が学校のどこで起こっているのかが分かるように、場所を示すとよい。

③ 緊張した雰囲気やわらいだことが分かるように、情景の描写を加えるとよい。

④ 練習の大変さが伝わるように、過去の練習の場面を入れるとよい。

健一たちは

高島さんは、【物語の下書き】を読み返し、――線部「練習をがんばってきた」を、それまでががんばってきた様子が読み手により伝わるように書き直すことにしました。次の□に当てはまる言葉を、「がんばる」という単語を使わずに、十五文字以内で書きなさい。

正答は、「今日まで練習を積み重ねてきた。」「毎日必死に練習をしてきた。」など、以下の条件を満たしているものになります。

- ① 「がんばる」という単語を使わずに、それまでががんばってきた様子が読み手により伝わるように適切に書いている。
- ② 「健一たちは」に適切に続くように十五文字以内で書いている。

【成果が見られるところ】

- 目的に応じて資料を効果的に活用して話すことについて、正答率は86.2% (全国：85.4%) でした。 (B問題2一)

【問題1】

三回目の実演のときは、どこに気を付けて見ればよいのかが分かりやすかったので、二回目の実演のときも同じようにするとよいと思います。

【問題2】

「今私がやったようにひびを動かすよいです」というところは、どのようにひびを動かすのかが分かりづらかったです。それに、なぜひびを動かすよいのかについても説明してほしいです。

【本の一部】

2 石井さんは、けん玉についてスピーチをします。次は、石井さんがスピーチをするために読んでくださった「本の一部」をリハートサルで実際に話した「スピーチ」を、リハートサル後に友達からもらった「意見1」、「意見2」です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。(スピーチ)の [] は、その箇所を(実演)を行うことを表します。(実演)は三回とも同じ動作を行います。

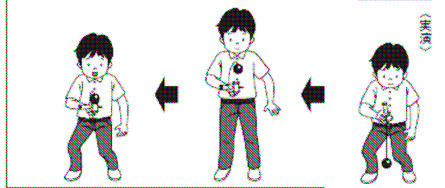
【図】

「大皿」という技について説明します。まず、けん玉を下の図のように持ちます。次に、ひびを曲げながら、けん先を下にして手を少し下げます。続いて、ひびを伸ばしながら、下げた手を戻す勢いで玉をまっすぐに引き上げます。引き上げた玉が落ち始める寸前は、玉が一瞬静止した状態になるので、玉を捉えやすくなります。このときに玉の真下に素早く皿を持ってきて、ひびを曲げながら受け止めます。ただひびを曲げればよいということではありません。玉の動きに合わせてひびを曲げるのです。ひびの動きは「大皿」に限らず、けん玉の多くの技を行う際に重要な動きです。特に、皿で玉を受け止めるときには、皿と玉がぶつかるときの衝撃をやわらげる効果があるのです。

【スピーチ】

今日は、けん玉の「大皿」という技を取り上げて、技を上手に決めるコツについて説明します。「大皿」というのは、けん玉の一番大きな皿に玉を乗せる技です。「大皿」はこのように持っています。まずはどのような技なのか見てください。【実演1一回目】

「大皿」のコツは二つあります。一つは、引き上げた玉が落ち始める寸前に、玉の真下に素早く皿を持つことです。玉の動きが一瞬静止した状態になるこのタイミングだと玉を捉えやすいので、成功する確率が高くなります。では、やってみます。【実演2一回目】少し難しいかもしれませんが、何度も繰り返してやっていると、徐々にタイミングがつかめるようになります。もう一つのコツはひびをうまく動かすことです。では、ひびの動きに注意して見てください。【実演3一回目】始めにひびを曲げます。そしてひびを伸ばしながら玉をまっすぐに引き上げます。玉を受け止めるときのひびの動きも重要です。玉を受け止めるときは、今私がやったようにひびを動かすよいです。若さん、ぜひこの二つのことに気を付けてながら、「大皿」という技をやってみてください。



- 1 技が成功する実演と失敗する実演の動きの違いに気付いてもらおうため。
 - 2 それぞれのコツの説明を実演と照らし合わせて理解してもらおうため。
 - 3 説明した内容に含まれていないコツを実演によって知ってもらおうため。
 - 4 見やすい技と難しい技を実演することで興味をもってもらおうため。
- 二
- 【意見1】はどのようなことを伝えようとしていますか。次の1から4までのうち、最も適切なものを一つ選びなさい。
- 1 実演を見るときポイントを示す方が、実演の効果が高くなること。
 - 2 実演を見るときポイントを実演後に何度も示す方が、実演の効果が高くなること。
 - 3 実演を見るときポイントを聞き手に予想させる方が、実演の効果が高くなること。
 - 4 実演を見るときポイントを示さない方が、実演の効果が高くなること。

正答は、一が2，二が1です。

【課題が見られるところ】

△ 相手に分かりやすいように語句を選択して話すことについて、正答率は49.1%（全国：54.0%）でした。（A問題7一）

7 森さんは、国語の授業で本を紹介するために学校図書館で先生に相談しています。次は、森さんと先生との会話です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

森 国語の授業で、「青春」というテーマで本を紹介することになりました。自分でも探しているのですが、なかなかこれという本が見付かりません。何かよい本はありますか。

先生 森さんは、どのような本を取り上げたいと思っっているのですか。

森 私は、何かに打ち込みながら成長していく人が出てくる本を二冊紹介したいと考えています。一冊はサッカーに打ち込む中学生を主人公とした小説を選びました。①もう一冊はそれ以外を取り上げたいと思っています。

先生 もう一冊の本もスポーツに関係する本にしますか。

森 スポーツの本でも、スポーツではない本でもよいと考えています。

先生 それならば、野球に打ち込む中学生を主人公とした小説がありますよ。

森 いえ、そうではないのです。一冊は小説を取り上げたので、もう一冊の本は違うものにしたいのです。

先生 そうだったんですね。②では、実際にあった出来事を書いた本はどうですか。

森 それは思い付きませんでした。具体的にはどのようなものがありますか。

先生 音楽に打ち込む人を取り上げた本や、演劇に打ち込む人を取り上げた本などがあります。音楽や演劇の欄を見てもよいですよ。

森 分かりました。③最初に音楽の欄を見えます。ありがとうございました。

一 森さんの――線部①の発言のすぐあとに、先生から――線部②の発言を引き出すためには、森さんは――線部③でどのように発言するとよいですか。次の□に当てはまる言葉を十字以内で書きなさい。

もう一冊は□を取り上げたいと思っています。

正答は、「小説以外の本」「小説ではないもの」など、以下の条件を満たしているものになります。

- ① 小説ではない本であることを書いている。
- ② 「もう一冊は」と「を取り上げたいと思っています。」に適切に続くように十字以内で書いている。

無答率も8.2%（全国：5.1%）と高く、大きな課題が見られました。

【課題が見られるところ】

△ 楷書と行書との違いを理解していることについて、正答率は45.8%（全国：49.6%）でした。（A問題9六1）

六 書写の時間に「和」という字を次のように行書で書きました。これを見て、あとの問いに答えなさい。



1 楷書と比較したときの行書の説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 楷書とは異なり、毛筆で書くことができる書体。
- 2 楷書とは異なり、筆脈を意識せずに書くことができる書体。
- 3 楷書よりも点画を崩さずに書くことができる書体。
- 4 楷書よりも速く書くことができる書体。

正答は、4です。

2の誤答が25.8%（全国：21.6%）も見られました。「和」という文字が筆脈を意識して書かれていることが理解できていないものと考えられます。